

自治会活動 参加レポート



No.13 芋窪中自治会

「納涼祭」

(平成 27 年 7 月 25 日実施)

日も暮れ始めた午後6時すぎ、毎年恒例の芋窪中自治会「納涼祭」が始まりました。

芋窪中自治会は、芋窪1丁目、2丁目及び4丁目を中心とし、208世帯で構成された、武蔵村山市と隣接する自治会です。

日中より猛暑の1日であり、夕方になってもその余韻を残し、未だ汗ばむ陽気でしたが、その暑気を振り払うかのように、まだ始まったばかりの会場には涼しげな浴衣姿の方をはじめ多くの皆さんが集まっていました。やぐらでは、威勢のいい太鼓の音が鳴り響き、祭の雰囲気は早くも絶好調。

出店コーナーも充実しており、中でも大人はビールに焼き鳥、子どもはかき氷を堪能している姿があちらこちらに。



昔懐かしい手動式のかき氷機で氷を削る心地よい音が、暑い夜に一服の清涼感を与えてくれました。



子どもには金魚すくいが特に好評のようで長蛇の列が。子どもたちは神経を研ぎ澄まし、集中力を高め、顔は真剣そのもの。「あ〜、だめだ…」「やった！」一喜一憂する声が何度も聞かれました。

納涼祭といえば欠かせないのが盆踊り。やぐらにどっしりと鎮座した太鼓は、見るからに大きく、ひときわ存在感を放っていました。太鼓演者によると、大きい分、迫力のある音を出せるが、かなりの体力を要するとのこと。そんな手ごわい太鼓を前にしても、女性演者は見事なバチさばきを披露し、会場の雰囲気を一掃盛り上げていました。



おなじみの『炭坑節』、『東京音頭』そして『大和音頭』が流れると、夏の風物詩盆踊りの輪ができていました。ご婦人のみならず、楽しそうに踊りに興じる少年の笑顔が印象的でした。



木村会長いわく「最近は踊り手の数が減り、盆踊りの面では以前と比べて寂しくなっているが、こうして老若男女多くの方が集まってくれることはうれしい」と。

時が流れても、芋窪中地域の絆は途切れることはなさそうです。

昔変わらぬ古き良き時代の夏の風物詩を体感できました。

帰り際に見上げたやぐらの真上に、きれいな上弦の月が輝いていた、心なごむ夜でした。



木村哲夫会長

自治会加入を希望される場合には、ご近所の自治会役員、会員の方にお尋ねいただくか、市役所市民生活課市民協働係までお問合せください。

電 話 042-563-2111 (内線1711)

ファックス 042-563-5931

※平成29年4月より課名が「地域振興課」へ変更となりました。